



Kita Alps

地域おこし

協力隊通信

Vol.2

北アルプス地域振興局
企画振興課

はじめに

北アルプス地域（大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村）では、2018年4月1日現在37名の地域おこし協力隊員が活動しています。

特産品開発や移住・定住促進に取り組む隊員、住民の生活支援や農作業支援に取り組む隊員など、その活動内容は隊員によって様々です。

本通信では、そんな多種多様な活動を行う隊員の日ごろの活動や任期後の目標等についてインタビューをし、記事としてまとめました。

隊員の皆様は、他地域の隊員の活動を知ることによって、今後の活動の参考にいただければと思います。

また、サポーターの皆様は、本通信を通して、隊員活動への理解を深めていただければ幸いです。

【相談窓口等のご案内】

地域おこし協力隊サポートデスク ※総務省からの委託を受け移住・交流推進機構 JOIN が運営しています。地域おこし協力隊になった方へのケアサポートを行っています。隊員として頑張っている中で、壁にぶつかったり、上手くいなくて悩んだりした時に、周りの方に相談しにくいような場合には、一人で抱え込まず、こちらの相談窓口までお気軽にご連絡ください。専門的な相談には、隊員 OB の専門相談員が対応します。

また、地方公共団体職員からの相談も受け付けています。

隊員向け窓口：TEL 03-6225-2318 **地方公共団体職員向け窓口：TEL 03-6225-2319**

URL： https://www.iju-join.jp/chiikiokoshi_report_cont/supportdesk/

※メールでの相談も受け付けています。申込フォームは上記 URL からご確認できます。

長野創業サポートオフィス

創業を考えている方のご相談に応じて創業前から創業後まで一貫してサポートしています。相談無料、秘密厳守。「創業を考えているけれど何から始めていいかわからない」「国・県・市町村の創業に関する支援策を知りたい」「事業計画や資金計画をどう進めたらいいのか迷っている」といった方はこちらにご相談ください。

相談窓口：TEL 080-7709-4700

長野県事業引継ぎ支援センター

当センターでは、創業を目指す方などと後継者を求めている企業・個人事業主が相互の希望条件を登録することで、事業引継ぎのマッチングを支援する仕組み「長野県後継者バンク」を設けています。創業を考えている方は、引継ぎによる創業も一つの方法としてご検討いただき、興味・関心のある場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

相談窓口：〒380-0936 長野県中御所岡田 131-10 長野県中小企業会館 3 階

TEL 026-219-3825 FAX 026-219-3826

E-mail hikitsugi@icon-nagano.or.jp

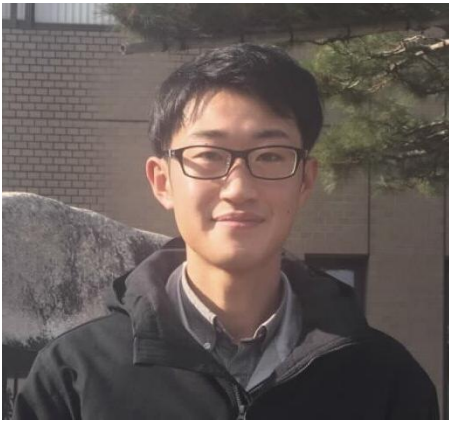
URL <https://www.icon-nagano.or.jp/cms/modules/contents/page/00092.html>

なお、「長野県後継者バンク」の詳細は、上記ホームページで確認できるほか、お申込手続は、お住いの商工会議所・商工会、または県内に本店のある金融機関本支店にて受け付けています。

長野県地域おこし協力隊総合情報発信ページ

協力隊 OB・OG が管理者となり、県内の地域おこし協力隊関係者が活用可能な Facebook ページを運営しています。地域のイベント・特産品・観光地・協力隊員の PR などにご活用ください。

URL <https://www.facebook.com/naganokyouryokutai>



松川村地域おこし協力隊
たかはし かつや
高橋 克弥さん

Profile

任 期：平成 29 年 5 月～
出 身 地：青森県黒石市
前居住地：新潟県新潟市
前 職：半導体エンジニア



▲大豆の刈取りをしているところ。忙しい時期は、朝 4 時に起きて、農作業をした後、出勤しています。

隊員になる前

高校卒業後、地元の青森県で就職し、転勤で松本市にきました。そこから、生涯生きがいを感じられるものを探したくなり、3年間勤めた会社を思い切って辞め、約2年間東京でアルバイトをしながら資金を貯め、海外を旅して見聞を広めました。

隊員になったきっかけ

東京で意気投合した彼女（今は妻です）と将来像を話す中で、田舎暮らしがしたいという彼女の意向もあり、理想を体現するために、田舎暮らしをしようと決意しました。地元以外で検討する中で、松本市に住んでいた時にこの地域によく来ていて、景色がとてもよかったことを覚えていたのので、安曇野市や池田町、松川村等で検討を始め、各役場に相談しに行きました。その中でも松川村が最も条件が合い、ちよつど協力隊の募集もしていたことから、縁を感じて村の隊員になりました。

現在の業務

現在は、食育推進事業・村の農産物のPR販売に取り組んでいます。具体的には、村の保育園の体験畑を整備したり、村の特産品である鈴ひかり等の物産展販売を行ったりしています。これまで物販に携わったことがなかったもので、販売に関するノウハウがなく最初は苦労しましたが、だんだん価格設定や売り方等の販売感覚が身についてきて、自分なりに工夫することができるようになりました。昨年度は慣れないこともあり、自分で業務を組み立てることが難しかったですが、2年目となる今年は自分で事業を組み立てながら取り組むことができています。

任期終了後は農家に！

元々隊員になる前から、就農したいという思いがあり、特に私たちの生活に欠かせない大豆の食料自給率が6%程度と、とても低いということで、主に大豆をメインとした栽培をしたいと考えていました。元々実家が農家で、農業の大変さは昔からよく知っているので、就農に向けて本気で取り組んでいます。

任期後の就農に向けた取組

着任当初から貸してもらえない畑はないが、上司を始め農業委員さんや顔の広い農家さんなど、いろいろな方に情報提供を依頼し、1年目から三反歩（約900坪）ほど畑を貸してもらえました。今年は更に少し増えた面積を管理しています。また、村では月に20時間であれば、任期後に向けた活動に充てていいことになっているので、その時間を活用して、畑の管理など任期後の就農に向けた取組をしています。



▲松川小学校の生徒に大豆の脱穀作業について説明。子どもたちが名前を覚えてくれたときにやりがいを感じます。



▲空いた時間は地元農家さんの下でお手伝いしながら、勉強しています。

的に栽培のノウハウを教えていただいています。

有機農業を本気で取り組もうとしている若者がめずらしいということや自分の技術を引き継ぎたいという農家さんの想いもあり、受け入れていただきました。毎日のお世話になっていて、本当に有り難く思っています。

ちなみに自分で栽培した農作物は村の道の駅や安曇野ちひろ公園で販売していて、昨年は黒豆を少量販売し、5〜6万円ほど売り上げました。今年は本格的に大豆等を販売する予定で、道の駅以外の販売先も含めて、売上は伸びそうです。ちなみに今の時期は、ポップコーンが道の駅の店頭と並んでいます。



▲ポップコーン1個200円。大変好評で、注文が殺到しているとのこと。ほしい方はお早めに！

また3年目からは、収入は減ってしまいましたが、隊員としての活動を週4日にさせていただき、他の時間は農業に取り組みすることを検討しています。

今後の目標

今は早く専業で農業をやっていきたくて思っています。そのために、国の補助金等を活用して、必要な機械の整備等を進めていく予定です。ちなみに今は、軽トラツクヤトラクターを譲っていただける方を探しています。

また将来的には、農家レストランや農家民泊もやってみたいと思っています。

高橋さんから、隊員の皆さん・サポーターの皆さんに♪♪メッセージ♪♪

皆さんのおかげで農家になるという一つの夢が少しずつ形になってきました。今後もよろしくお祈りします！





白馬村地域おこし協力隊

さわだ ゆきえ

澤田 幸恵さん

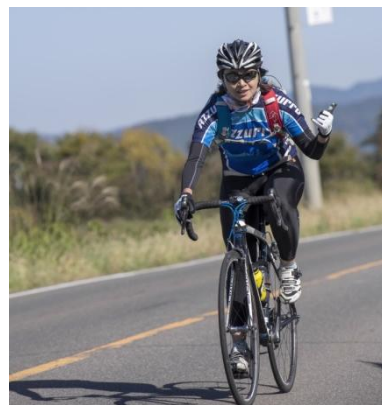
Profile

任期：平成 29 年 6 月～

出身地：長野県安曇野市

前居住地：東京都三鷹市

前職：貸別荘のマネジメント



隊員になる前

電機メーカーで7年間勤務した後、白馬村のエヴァーグリーンアウトドアセンターで約4年間ガイド等をして働いていましたが、偶然知り合いから、白馬村の貸別荘のマネジメントのお話をいただいたので、隊員になる前は1年間ほど、そちらの仕事をしていました。その間は、東京と白馬の半々で生活をする2拠点居住をしていて、別荘にどうすればお客様が来るのか、日本人の富裕層をターゲットとした事業展開ができるのかなど、マーケティングの分析や調査・研究・実践をしていました。

隊員になったきっかけ

白馬村でガイドをしていたということもあり、たまたま自転車観光に向けた取組を村に提案する機会があり、プレゼンしたところ、役場の方から隊員にならないかというお誘いをいただき、隊員として観光課に着任しました。

現在の業務

着任当初からサイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。村でのガイド経験から、観光客が来ない時期がわかっていたので、サイクルツーリズムを進めることで、年間を通して観光客数の平準化を図ることができのではないかと思い、村に事業提案しました。

これまで、様々な取組を進めていますが、今年はサイクルリストだけでなく、地元の方にも自転車を楽しんでいただくため、電動アシストバイクの体験会を開催しました。これまで12回ほどやっていて、1回につき2時間半程度、最大8名で実施していま

す。参加者は主に40～60代の方々です。中には80歳近い方もいて、幅広い年代の方に楽しんでいただいています。この体験会では、ただ自転車に乗るのではなく、桜がきれいな場所に行ったり、塩の道に行ったりと、季節や文化を感じられるスポットに行くようにしていて、美しい景観を見、そしてみんなで楽しむことを大切にしています。まさに散歩感覚で自転車を楽しむ「ポタリング」体験会ですね。遊び仲間をつくる場にもなっていますし、年配で移住された方の仲間探しの場にもなるかなと思います。また体験会の中では、自転車を安全に乗るための講習も行っています。安全だからこそ楽しいと感じられると思うので、安全面についても必ずお話するようにしています。こうした取組を通して、地元の人たちにも自転車が少しずつ浸透していけばいいなと思っています。



▲今年開催した体験会当日の様子。
体力に自信がない方でも、電動アシストバイクを使えば、遠くまで行くことが可能です。

サイクルは、地域の方が地元の魅力を発見する一つのツールになると感じています。地域の方もぜひ、自分が素敵だなと思つたところで立ち止まって写真を撮つていただき、それをSNSにアップして、村の魅力を発信していただけると嬉しいです。

また現在、既存のサイクルマップの見直しをしていて、来年1月末に完成予定です。サイクルリストはもちろん、サイクルリストでない方も楽しめるようなマップを作りたいと思い、自転車で観光巡りするルートとサイクルリスト向けのルートの2つを紹介することになっています。また、白馬村だけでなく大町エリア等も掲載して、広域的な自転車観光を楽しんでいただけるよう心がけて作成しています。私もこれまで県内外いろいろなところを走ってきましたが、北アルプス地域は自転車が行きやすい環境が整っている、まさに「自転車天国」なんです。車も来ないし、山や田んぼがあつて景色もきれいで、空気もいい。楽しく乗って、美味しく食べる、そして温泉で体をリフレッシュできる最高のエリアなので、この地域のファンをもっと増やしていけたらなと思っています。



▲現在作成中のサイクルマップ。
実際に現場を見ながら、サイクルリストを始め多くの方が楽しめるコース設定をしています。

任期終了後について

任期後も自転車を盛り上げていく活動に携わっていきたいと思っています。また、貸別荘のマネジメントについても、村に貢献できるように、少しずつ事業拡大していくことを視野に入れていきたいです。村には夏の仕事が少ないので、サイクルツーリズムで観光客を誘致し、夏場の仕事も増えていけばいいなと思います。

澤田さんから、隊員の皆さん・サポーターの皆さんに♪♪メッセージ♪♪

地元にも貢献して、環境にも貢献できる“自転車”企業活動の中で、環境に優しいサイクル推進の活動と一緒に取り組んでいきませんか？

また、サイクル関係の事業やイベントを行う際には、資金的・人力的な面でご協力いただかなければならない場合があると思います。そういった際には、ぜひ耳を傾けて積極的にご賛同いただければと思います。





小谷村地域おこし協力隊
にいむら よういち
新村 洋一さん

Profile

任期：平成 29 年 5 月～
出身地：長野県諏訪市
前居住地：東京都川崎市
前職：楽天株式会社勤務



▲夜は幻想的な光に照らされるキャンプ場。大自然の中で映画鑑賞もできるなど、開放的な空間で贅沢な時間を過ごせます。

隊員になる前

システムエンジニアとして東京の会社で約3年勤めた後、楽天株式会社で12年間働いていました。最初は、ECコンサルタント（ネット販売専門のコンサルティング）として入社しましたが、マーケティングやメディア戦略、ジャンル戦略も行い、事業予算策定や決算対応等の経営管理も担当していました。

隊員になったきっかけ

元々隊員になろうとは思っていませんでした。30歳を過ぎて、バックカントリースキーにはまり、毎週末、白馬・小谷に来るようになったことで、この地域で友人ができ、その繋がりからキャンプ場の管理・運営の話聞いたのがきっかけです。前の会社でもある程度やりきったと感じた部分もありましたし、田舎で仕事をしたいという思いもあったので、キャンプ場の運営に手を挙げたところ、村の提案で隊員として着任することになりました。

現在の業務

村の指定管理施設である Mukava Otari Private Camp（池の田グリーンスポーツキャンプ）の管理をしています。株式会社 Kinitos を昨年の12月に設立し、今年には村に精通している地元の方を正社員として雇って、キャンプ場の運営をお願いしました。1日1組限定のキャンプ場で、昨年は2〜3か月ほどしか営業できなかったため、単純比較はできませんが、客数でいうと今年が昨年の3倍となっています。ちなみに広報は、HPとFacebook、「なつぷ」という登録サイトだけ。あとは、昨年の冬に都心

のベンチャー企業等に営業に行き、頻繁に行われている「オフサイトミーティング」（企業の重要な課題や案件を検討するにあたり、よりオープンで活発な議論を促すためにあえて社外に場所を移動して集中して行う会議）とキャンプを組み合わせて「オフサイトキャンプ」の誘致を行いました。このキャンプでは、小谷村の元隊員の方が経営している Cafe 十三月の会場も借りる等、先輩隊員にも協力いただきながら実施しました。今年は、口コミ等で自然とお客が増え、キャンプ場の売り上げも計画通りになっています。またこのほかにも、村に新設するシェアオフィスの事業にも今年から携わっています。



▲先輩隊員が古民家を改修してオープンした Cafe 十三月にて。新・旧隊員が連携して取り組むことで、相乗効果が生まれます。

隊員業務以外の活動

今年の8月に白馬村で「NAGANO COFFEE FESTIVAL」を開催しました。これは、東京で毎年開催されていて、1回で3万人も集客する「東京コーヒーフエス」を長野でもやろうということと、大町市の UNITE COFFEE さんや白馬村のペンギンカフェさん等と協働で

企画しました。開催資金は、クラウドファンディングやスポンサー営業等で集め、2日間開催し、延べ約2,000人の方に来場いただきました。初開催にも関わらず黒字となり、出展された店舗さんからも大変好評でした。

このフェスは、県内各地でやりたいと考えています。長野県は水がおいしく、おしゃれなコーヒーフエスやパン屋が多い。ただ県域が広いので、全部楽しむことが難しい…。それが一堂に会したら良いものになると思います。また、地域おこし型の集客力あるイベントを県内各地でできれば地域振興に繋がるので、最終的にはフランチャイズ型で、各地に根付くイベントにできればと考えています。



▲NAGANO COFFEE FESTIVAL 当日の様子

これまでの活動を通して

正直なところ、今管理しているキャンプ場も含めて、隊員になって相応な自己投資をしているので、それを回収するために本気になってやっています。3年間は本当に短いので、成果を出すためには相当やらないといけないと思っています。

任期終了後について

小谷を拠点に県内でビジネスをしたいと考えています。県内各地の土地や家を再生した新しいビジネスプロデューサーなどを拡大していきたい、都心と地方の人や知恵の対流促進などをしていきたいと思っています。



▲フィンランドから輸入してきたこだわりのテント。お酒落なミニBARも併設されています。



▲NAGANO COFFEE FESTIVAL では、多くのコーヒーフアンが集いました。

新村さんから、隊員の皆さん・サポーターの皆さんに♪♪メッセージ♪♪

小谷発で長野県内にいろんな地域おこし事業を展開していくので、楽しみにしてください。お声掛けする際は、ぜひご参加ください！

北アルプス地域で活躍している隊員 OB・OG に これまでの活動や今の生活について聞いてみました♪

隊員になったきっかけ

横浜に住んでいた時に、ちょうど住宅の購入を検討し始め、その中で「子供たちがのびのびと遊べる田舎暮らしがしたい」という妻の意向もあり、実家の神奈川県から近い長野県か山梨県で移住を考え始めました。移住について調べたときに、協力隊の存在を知って、この制度を使って移住しようと決めました。協力隊の受入条件が比較的良かった長野県を絞り、最終的には、自分がやりたい仕事内容で、程よい田舎だった松川村を選びました。

隊員時の業務

着任当初は、村の営農支援センターで、食育推進や村のブランド米「鈴ひかり」のPR促進、農産物のイベントへの出展・販売等を行っていました。また、着任当初から、支援センターに入入りにしている地元農家さんたちに聞き取りを行い、農業についてみっちり勉強しました。そういったこともあり、任期中で、安曇野ちひろ公園に関する業務(収穫体験用の畑の圃場管理



松川村地域おこし協力隊OB

にしざわ ひろみ
西澤 大海さん

Profile

任 期：平成 27 年 9 月～平成 30 年 8 月
出 身 地：神奈川県相模原
前居住地：神奈川県横浜市
前 職：一般企業勤務
(輸入品の仕入れ販売)

等)も担当するようになり、最後の1年は、支援センターからは離れて、ちひろ公園の業務を専任していました。
3年間、本当に多くの方に支えられて活動できたため、辛いと思ったことは一度もなく、すごく楽しかったですね。



▲任期中は、地元農産物のPRのため、多くのイベントに出展しました。

隊員時の生活について

元々妻と子供3人で暮らしていて、隊員になつてから子供が2人生まれたので、7人家族という大所帯でしたが、金銭的に困ることはなかったです。生活費は主に隊員の活動費でまかない、基本的に食費はあまりかかりませんでした。野菜やお米は近所の方がくださり、家庭菜園もしていたので、買う必要がなかったんです。また、家賃は村に負担していただき、保育園も3人目から無料というこ

とで、村の受入体制が整っていたことも、とても助かりました。また、副業として、地元農家さんのお手伝いや、農産物販売のためのパッケージ・チラシづくりも行ってました。業務の延長で引き受けてもよかったです。副業という形にしましたので、業務との線引きは常に意識してましたね。地域のいろいろな人とコミュニケーションをとっていると、自ずと仕事の情報が入るので、自分で対応可能か判断したり、対応できそうな人を紹介したりしてました。

地域の方とのつながりについて

私がこの地域に定住するきっかけになったのは、やはり地域の人のつながりが大きかったと思います。着任当初から、様々な世代の方とのつながりを持ちたいと思っていたので、消防団に入ったり、保育園の役員をやったりしながら、普段の業務ではなかなか関わることのできない世代の方ともつながりが出来て、とてもよかったです。



▲活動の際に大切にしていたことは、地元の方とのコミュニケーション。今でも大切にしています。

今の生活について

着任当初は、自分で農産物を生産・出荷することができたらと漠然と考えていましたが、隊員活動を通して、農家の大変さを知り、方向転換を図りました。

今は、村の伝統食である「田鯉のすずめ焼き」の事業継承をして、個人事業主として加工・販売をしています。「田鯉のすずめ焼き」は、これまで農業法人東印が販売してきましたが、事業を終了してしまうというところで、継承を決定しました。また、この他に、隊員時に在籍していたちひろ公園で臨時職員として働いています。



▲松川村の伝統食「田鯉のすずめ焼き」。北アルプス山麓ブランドにも登録され、甘じょっぱい味付けがやみつきになる一品。寄って停まつかわ、かぼちゃやま農園で販売中。

今は個人事業主ですが、近いうちにいろいろな方を巻き込んで、多方面で経営していくことも検討中です。村の人たちがとてもよくしてくださったので、地域をなんとかしなきゃいけないという思いもあり、後輩隊員のことにも気にかかると、いろいろと考えて動いているところです。

隊員の皆さんへ

地域にどんどん出て行って、自分を知ってもらいながら、相手のことも知っています。たくさんの情報を集めてほしいなと思います。その中で、一緒にやってできる地域おこしを見つけることができました。定住に向けての取組に繋がったりと、活動もより楽しくなると思います。

隊員の皆さんの活動や任期後の定住を応援して下さる サポーターの方にもお話を聞いてみました♪

今回は、大町市の現役農家の山本さんにインタビューしました！



山本 晃司さん

山本さんからメッセージ

就農を目指している隊員さんの相談にご協力できるかなと思います。就農を考えたとき、厳しい側面もあるかもしれませんが、農業が面白いと感じているなら、それが農業に向いている素質の一つです。少しでも興味・関心のある方は、ぜひお気軽にご連絡ください。



山本さんが栽培している稲作情報は、こちらからご覧になれます。
<http://hp-honma.sakura.ne.jp/kome.html>

これまでの経験について

私も実は移住者なんです。松本市で育ち、約10年間関西で暮らした後、大町市に移住してきました。初めは就農するつもりはなく、たまたま大町の農業法人へ転職したのをきっかけに、農業がどんどん好きになり、実際に自分でやってみたいと思い、転職してから2年後に独立して就農しました。

はじめは畑を借りて、切り花農業をしていましたが、それだけでは妻と子供2人の4人家族では食べていけないので、酒づくりや温泉掃除などのバイトを掛け持ちしながら生計を立てていました。また切り花のほかに、自家用の野菜や無農薬のお米を作っていたんですが、有り難いことに無農薬のお米の購入依頼が口こみで増え、販売が軌道に乗ってきたので、2009年以降は稲作に特化して生産・直売しています。今では、東京など県外に住んでいる方から多く注文を受けていて、経営も比較的安定しています。

農業について

正直なところ、百姓は収入面で見ると非常に厳しいため、特に新規就農の場合は、農業だけでなく何種類かの収入源を持たなければならない方がほとんどだと思います。そこさえ肝に銘じていれば、とても面白みのある職業だと思いますし、農業に休みはありませんが、自営業なので1日全てが自分の時間と感じられるのもとてもいいです。

山本さん、ありがとうございました！

インタビュー中も終始穏やかで、暖かく優しい人柄が感じられる山本さん。ご自身も新規就農者だったことから、就農の大変さや乗り越え方など、親身になって相談に乗ってくださいます。

既に山本さんに連絡をとった隊員もいらっしゃるとのこと。農業に興味・関心のある方は、ぜひ連絡してみてください。

なお、相談を希望される場合は、市町村担当者までご連絡をお願いします。

県新規就農里親制度^{*}の里親農家になっています

長野県が実施している新規就農里親制度で、里親農家になっています。新規就農者の技術習得から就農の際の農地の確保等をサポートしていて、これまで3名の研修生を受入れ、うち1名は既に市内で独立して就農しており、もう1名も来年独立就農する予定です。

農業に一人勝ちはありません。農村がしっかり維持されていないと農業は成り立たないので、農家人口を増やすことも私の仕事です。就農したいという方が増えてほしいですし、そういった方がいれば、できる限りサポートしていきたいです。

※新規就農里親制度とは・・・

長野県では平成15年度から、新規就農希望者を受入れ、独立就農を積極的に支援したいと考えている熟練農業者の方を「里親（農業者）」として登録し、独立就農を希望する新規就農希望者の方にご紹介する「新規就農里親制度」に取り組んでいます。里親による支援は多岐にわたり、独立就農するための技術習得や地域住民への紹介、農地・住宅等の確保支援、そして就農後も身近な相談役として様々な相談に応じます。

農業に興味・関心のある隊員さんへ

無農薬の稲作について勉強するのが好きで、よく本を読んだり、友人と情報交換したりしているので、そのことについてお話できると思います。また、冬期間に酒づくりも行っているため、そちらについても少しお話できるかなと思います。

新規就農を目指している方や 農業に関心のある方に耳よりな情報♪

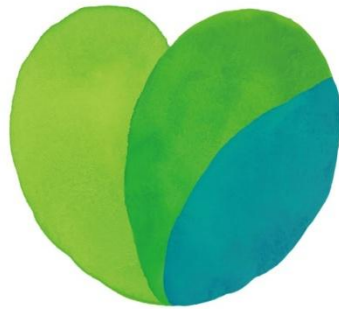
就農を考えている方を対象とした農業体験研修や農業に関心を持っている方が農業に親しむことができる体験型研修など各種研修会を長野県農業大学校（小諸市）で開催しています。また、新規就農里親制度をはじめ、就農に向けた必要な技術等の習得を後押しする支援策もご用意しております。

詳しい支援内容が知りたい場合は、下記北アルプス農業改良普及センターまでお問い合わせください。

TEL:0261-23-6544 (担当：井ノ口)



長野県PRキャラクター
「アルクマ」©長野県アルクマ



しあわせ信州

確かな暮らしが営まれる美しい信州
～学びと自治の力で拓く新時代～

Kita Alps 地域おこし協力隊通信

Vol.2 (2018 . 12 . 26 発行)